

氏名	山本 英子	部署	看護学科	職名	准教授
研究分野	母性看護学・助産学				
学位	修士（保健学）				
学歴	2006年群馬大学大学院医学系研究科博士前期課程				
経歴	2006年埼玉県立大学保健医療福祉学部助手、07年埼玉県立大学保健医療福祉学部助教、14年埼玉県立大学保健医療福祉学部講師、18年埼玉県立大学保健医療福祉学部准教授				
所属学会（役職）	日本看護科学学会、日本助産学会、日本母性看護学会、日本母性衛生学会、日本思春期学会、日本新生児看護学会、日本小児保健協会、埼玉県立大学保健医療福祉科学学会、千葉看護学会、日本看護シミュレーションラーニング学会				

【2023年度実績】

1. 研究業績						
(1) 著作						
	著作の名称	単・共	ISBN	発行所、全ページ数	著者、編者名	発行等年月
1	2024年版 系統別看護師国家試験問題集 (第111回看護師国家試験 解答と解説)	共著	あり	医学書院；P.1772	母性看護学（石井邦子、大月恵理子、 <u>山本英子</u> 、他12名	2023.4
(2) 論文						
	論文の名称	単・共	査読	IF対象誌 雑誌名、巻（号）、開始-終了ページ	著者、編者名	発表等年月
1	就労妊婦が抱く身体活動への思いと行動	共著	あり	母性衛生.64(4). 675-682	<u>山本英子</u> ，飯岡由紀子	2024.1
(3) 学会発表						
	学会発表の演題	単・共	学会名、開催都市	発表者（発表者は○印）	発表等年月	
1	妊婦の身体活動自己調整力尺度の開発	単独	第14回埼玉県立大学保健医療福祉科学学会,越谷市	○ <u>山本英子</u>	2023.11	
2	分娩介助実習直前の助産学生における模擬産婦シミュレーション演習前後の実習意欲の変化	共同	第5回日本看護シミュレーションラーニング学会,荒川区	○東原亜希子，柴田由里子， <u>山本英子</u> ，森美紀，兼宗美幸，齋藤恵子，浅井宏美，千葉真希子，斎藤未希，堀口香織，鈴木幸子	2024.2	
(4) その他						
	名称	単・共	発表場所等	発表者（発表者は○印）	発表等年月	
1	該当なし					
2. 競争的資金等の研究						
	競争的資金等の名称	研究名	研究代表者・研究分担者の別	研究期間		
1	文部科学省・日本学術振興会科学研究費補助金（基盤研究C）	運動行動変容ステージを基盤とした妊婦の身体活動を促進する看護介入の開発	研究代表者	2018.4～2024.3		
2	埼玉県立大学 奨励研究（A）	分娩介助実習直前の助産学生における模擬産婦演習の教育効果の検討：演習前後の実習意欲の変化	研究分担者	2022.4～2024.3		
3	埼玉県立大学 奨励研究	妊産婦の健康課題解決に向けた子育て世代地域包括ケアシステム構築のための実証研究	研究協力者	2022.4～2024.3		

3. 教育業績				
(1) 講義				
	講義の名称	科目責任者	コマ数	概要（教育内容・方法等において工夫した点）
1	母性看護学Ⅱ	○	3	看護学科2年次生130名に対し、母性看護学における対象者の特徴や重要概念を説明し理解を促した。さらに、母性看護学領域の看護過程の特徴である「ウェルネス志向型」看護過程について、学生が系統的・段階的に理解が深まるよう講義を行った。講義・演習・臨地実習の連続性が意識できるように講義を展開した。
2	分娩期のケア		2	看護学科4年次生22名に対し、助産診断・ケア技術能力の向上、根拠に基づいた助産ケアの実践に向けて、ガイドラインや研究結果、臨床での実際も含め講義を行った。模型や視聴覚教材を活用し深い理解を促した。さらに、助産師のコアコンピテンシー、キャリアデザイン、目標設定や行動計画にもふれ、学生が自己調整学習を展開できるよう支援した。
3	周産期のケア		1	看護学科3年次生22名に対し、わが国の育児支援の動向と現状、課題から、対象者（母子、家族、地域）の求める子育て支援や助産師の役割について、理解および考察が深まるよう支援した。
(2) 演習				
	演習の名称	科目責任者	コマ数	概要（教育内容・方法等において工夫した点）
1	母性看護学Ⅱ	○	8	看護学科2年次生130名に対し、看護過程について、自己学習やグループ討議を系統的・段階的に理解が深まり、講義・演習・実習の連続性を意識し支援した。また、各グループ間での情報共有により母性看護学領域における看護過程の展開への理解が深められるよう意図的に関わった。 ・対象者（褥婦・新生児）と看護職者の関わり場面の動画を作成し、対象者のイメージ化を図り看護過程に反映できるように支援した。
2	周産期のケア		2	看護学科3年次生22名に対し、助産師外来演習（妊娠健康診査および妊娠期の保健教育）を臨床の実際がイメージできるように支援しながら実施した。学生同士でのロールプレイを活用し、対象理解や対象者(妊婦)からの視点でも助産ケアを考察でき、さらに実践を省察できるように関わった。対象者のニーズに沿った一貫性を意識した看護過程の展開となるよう支援した。
3	分娩期のケア		29	看護学科4年次生22名に対し、ICTや模擬患者（産婦）を活用したシミュレーション教育を行い、診断・ケア技術、コミュニケーション、チームワーク、評価(リフレクション)の各能力が系統的・段階的に向上するよう展開した。演習主担当として、授業案およびシミュレーションシナリオ・展開シートなどの作成、準備、運営、評価を行った。感染予防対策を講じた上での実習室の開放・指導担当教員の配置をし自己練習・学習の環境を整え短期間での技術習得を支援した。
4	リプロダクティブヘルスと看護		3	看護学科3年次生27名に対し、各学生が自分の興味のあるリプロダクティブヘルスに関するテーマについて発表ができるように個別面談・個別指導などを行った。とくに、テーマ設定、目的の明確化を行い、一貫性のある発表内容およびスライドとなるよう支援した。
(3) 実習				
	実習の名称	科目責任者	学外実習：期間 学内実習：コマ数	概要（教育内容・方法等において工夫した点）
1	母性看護学実習		2023.5～2023.6	3年次生10名を対象に、学内代替実習・臨床講義の実習指導を行った。産褥期・新生児期の変化、母乳育児支援、母子相互作用・愛着形成、退院後の生活について、対象理解が深まるよう支援した。

2	総合実習（母性看護学領域）		2023.7	4年次生3名を対象に、妊娠期・産褥期・新生児期にある対象の包括的な理解や長期的視点を含む個別性の高い健康教育の実践に向けて支援した。
3	助産学実習Ⅱ		2023.6～2023.11	4年次生助産系学生22名を対象に、コロナ禍における実習方法(代替実習2事例：e-learningコンテンツ、動画教材)のシナリオ・展開案を主担当として作成し実施をした。また、4年次生助産系学生3名を対象に2施設の産科病棟で実習指導を行った。入院の判断から分娩介助まで実施し、継続性と個別性の視点をもてるように、学生のレディネスに応じて、段階的に助産ケア能力が向上するよう展開した。さらに、助産観の醸成を意識して関わった。
4	IPW実習		2023.8～2023.10.	学部4年次生6名の教員ファシリテータ（FT）を担当した。学生が主体的に参加し、活発な討議や個人・チームのリフレクションが深められるよう支援した。新規実習施設であり、施設FTと連絡・報告・相談を密に行い、学生が実習目標を達成できるようにファシリテートした。

(4) 論文指導

	対象	期間	主指導・副指導の別及び指導人数	
1	卒業論文	2023.3～2023.12	主指導 4名	副指導 0名

(5) その他

	名称	期間	概要（教育内容・方法等において工夫した点）
1	学内代替実習（母性看護学実習）の改良	2023.5～2023.6	実習施設の受け入れ条件の変更により、看護学科3年次生34名に対する母性看護学実習(産科病棟実習)の代替実習を検討し、実施した。臨地実習経験の少ない学生に対し、可能な限り臨地実習に近い形態・スケジュールを検討し、実習教育の質を担保に務めた。模擬褥婦（外部非常勤）・指導者の設定、動画視聴、電子カルテや教材モデル等の活用などを行い、対人コミュニケーションや五感を使った観察から情報収集することを意識した学内代替実習を作成した。
2	分娩介助技術習得に向けた技術練習指導	2023.4～2023.6	4年次生助産系22名に対し、直接分娩介助技術（清潔野作成～分娩後2時間の説明）の自主練習において指導を行った。母児の安全・安楽かつ根拠に基づく技術の習得に向けて自己調整学習が展開できるよう支援した。

4. 社会貢献活動

(1) 講演会、研修会、公開講座等の講師

	講演会、研修会、公開講座等の名称	主催	講演、研修、公開講座等のテーマ	開催年月
1	ベビーマッサージ	越谷市児童館 ヒマワリ	ベビーマッサージ&エクササイズ～親子で楽しくスキップ～：主担当講師（パンフレット作成・実施）	2024.3
2	オープンカレッジ SPU 多文化MANABI カフェ	埼玉県立大学	多文化MANABIカフェ	2023.10.

(2) 国、自治体、学術団体等における委員等

	国、自治体、学術団体等の名称	委員等の名称	任期
1	埼玉県看護協会 助産師職能委員会	委員	2020.6～現在
2	越谷市男女共同参画推進委員会	委員（2019.7～会長）	2017.7～2023.6
3	埼玉県立春日部女子高等学校	学校評議員	2018.4～現在
4	日本国際看護学会	第7回国際看護学会学術集会実行委員	2023.11

(3) ジャーナリズムでの発言

	メディア等の名称	内容	年月
1	該当なし		

(4) その他				
	項目	相手方等	内容	期間
1	該当なし			
5. 学内運営				
	項目	内容		期間
1	全学的委員会及びセンター業務等	専門職連携推進部会		2019.4～2024.3
2	全学的委員会及びセンター業務等	専門職連携を学ぶ講座：チームビルディング研修		2023.6～2023.7
3	全学的委員会及びセンター業務等	ダイバーシティ推進委員会相談員（妊娠・育児）		2023.4～現在
4	大学広報活動	オープンキャンパス担当（教員相談）		2023.6
5	学生支援	車いすバスケットボールサークルSPRED顧問		2020.4～現在
6	学生支援	ソフトボールサークルWSSC顧問		2016.4～現在
6. 受賞（研究、教育、社会貢献活動に関するもの）				
	受賞名	主催		受賞年月
1	該当なし			
7. 特許の取得				
	特許名	特許番号		登録年月
1	該当なし			
8. 特記事項				
1	該当なし			